

機会などももちました。が、ふだんは、先ず原文を音読し、みんなの意味を考え、引用文については、その原典を参照します。今年度は、論語普及会の「仮名論語」を読んでいます。仮名論語を音読した後、必ず「論語」の原文を素読して、互いに意味を考え、感想を述べ合ったりしています。

途中で休憩をとり、会員が費用を出し合って、お茶菓子を出しています。

近年、全国各地で子どもや成人を対象にした論語の素読が広がっています。このような学習は、功利的なねらいをもつものではなく、藤樹先生が「藤樹規」で明示しておられるように、「学び」とは、「修身」そのものであるかと思えます。日常生活の中で、ひととき学びへの意欲を自らかきたて、しかもこれを継続してやめなことが何よりも大切なことと考えています。

これからもいっそう多くの方々の参加をお待ちしています。

●これまでの講読書

- 「藤樹規」(平成二十二年度)
- 「孝経」(平成二十三年度)
- 「鑑草」(抄本)
- 「翁問答」(平成二十四年度)
- 「論語」(平成二十五年度)

大洲ま「り」への参加



十一月三日、四日、足立清勝さんと川越清司さんが魅力ある地域づくり事業の一環で、大洲市で開催された「大洲まつり」に参加されました。

現地では、高島地域の物品を販売したり、大洲市民の皆様と親しく交流したりされました。その際には、高島藤樹会の作成した紙芝居「久子夫人と先生」「遺徳を守る人々」各二十五組を、大洲市教育委員会に贈呈されました。これらの紙芝居は、大洲市内の学校等に配付されることのできることを(事務局)

○中江藤樹の顔展

近江聖人中江藤樹記念館
館長 横井 正

近江聖人中江藤樹記念館は、藤樹生誕三百八十年を記念し、昭和六十三年三月に開館しました。

当館は、第一展示室・第二展示室・図書室を備え、人物「中江藤樹」とその教えを顕彰することを目的にして運営しています。

シリーズ①「伝え継ぐ藤樹先生」

第二展示室は、藤樹の遺品・遺墨を中心に約六十点、第一展示室は、藤樹研究関係者の遺品などを中心に約五十点を常設展示しています。また、第一展示室には、小企画展スペースを設けており、六カ月ごとに藤樹に所縁のある人や庶物を特別展示しています。この小企画展は、平成十一年十二月に行った第一回「伊予の小京都・大洲写真展」を皮切りに、第六回「藤樹先生の手沢本」第十三回「愛敬の教育者・松本義懿展」第二十二回「佐藤一齋の書跡」第二十三回「西晋一郎博士の回顧」などを行い、現在開催中の「中江藤樹の顔展」は、二十四回を数えます。

ところで、藤樹の顔ですが、米子市や大洲市・高島市をはじめ、全国で成長年齢期や生活拠点ごとに

制作された数々の肖像を見つけることができます。そこで、その肖像をご覧いただき、①「藤樹心学(良知心学)」を確立する過程における苦悩や自信などの藤樹自身の心情②濃厚篤実・厳格等の藤樹の人格③江戸時代前期・中期・後期・大正・明治時代、各々の時期における人々の藤樹に対するイメージの変遷等を想像していただきたいと思います、小企画展「中江藤樹の顔展」を開催しております。藤樹のさまざまな顔から「聖人への道のり」の深みを感じていただきたいと思います。

顔展では、肖像掛け軸・座像・教科書等の挿絵・写真パネルなど総数二十五点を展示しています。左にその一部を紹介します。



所蔵した肖像
直衣を着用した
二歳の肖像



査徳宮若
立博蔵の肖像
大洲市立博物館



相談された肖像軸装
藤樹の母と淵岡山が



装軸肖像
「修身堂」に掲げられていた肖像軸装
大溝藩